

シリーズ各区ですすむ住民主体のまちづくり

豊かな心が育つまち、ながた

今回は、長田区でのまちづくりの取り組みについて紹介していきます。

1. 長田区の成り立ち

長田区は昭和20年5月に区制を実施しており、来年で区制60年を迎えます。もともとは、明治29年に長田、東尻池、西尻池、今和田新田、御崎、吉田新田、駒ヶ林、野田の8カ村からなる林田村が神戸市に編入され、昭和6年に区制が実施され林田区が設置されました。その後、昭和20年に林田区を分離・統合し、長田区が設置されました。

市街化の進展としては、明治時代後半に新湊川以東で道路事業により市街地化が進み、大正時代には耕地整理により新湊川以西で市街地化が進みました。戦後は、宅地開発により山麓部で市街地化が、臨海部では埋立が進み、現在の長田区の基盤ができました。

2. 長田区の現状

長田区の市街地の特徴は、住商工が混在したまちで、狭い路地に面して長屋等の住宅が密集し、老朽化した建物が残されています。

人口は、昭和40年に約21万人とピークでしたが、その後徐々に減少し、現在では約10万人となっています。これは、いわゆる「インナーシティ現象」による人口の流出と空洞化に加え、先の阪神・淡路大震災による影響があるものと思われます。また、少子高齢化も進展しており、長田区の人口の約4分の1が65歳以上の方が占めている一方で、就学人口の減少による小学校等の統廃合等の問題等も生じています。さらには、震災や長引く不況によりケミカル関連の工場等が減少し、商店街や市場等でも閉店する店舗が増加するなど、まちの活力が低下しており、地域の活性化が課題となっています。

3. 長田区でのまちづくり

震災前のまちづくりの取り組みでは、住民主体のまちづくりを進められた地区として真野地区があります。真野地区では、公害運動から住民主体のまちづくり活動に発展し、昭和55年にまちづくり推進会を発足し、昭和57年には神戸市長とまちづくり協定を締結しました。そして、現在に至るまでまちづくり活動の取り組みを継続しています。

また、平成7年1月の阪神・淡路大震災では長田区内において甚大な被害がありました。そのため、震災復興の都市計画が定められ、土地区画整理事業が5地区（御菅東、御菅西、新長田駅北、鷹取東第一、鷹取東第二）、市街地再開発事業が1地区（新長田南）で進められています。



復興事業においては、まちづくり協議会を立ち上げ、住民との話し合いを通じてまちづくりを進めています。

また、復興事業が指定されなかった、いわゆる白地地区の中では、野田北部地区で、震災前に立ち上げたまちづくり協議会が中心となり街並み誘導型地区計画を導入し、街なみ環境整備事業等により、まちづくりを進めてきました。

さらには、駒ヶ林地区や長田神社前地域などでもまちづくりの取り組みに対する機運が 最終面につづく

パリにおける最近の都市計画 -その2-

(今回は、前号に引き続きパリで都市計画の仕事をされている非営利組織「APUR」を紹介します。)

(2) APURの活動内容等

フランスでは、2001年に制定されたSRU法(都市再生連帯法)により、すべての市町村でPLU(都市計画ローカルプラン)の新しいプランづくりが義務付けられました。

パリ市については、1977年に定めた都市計画を基本として、これまでPOS(土地占用計画)、PLUと計画内容を見直してきた経緯がありますが、新たにPADD(持続的整備開発計画)を策定することが必要になりました。



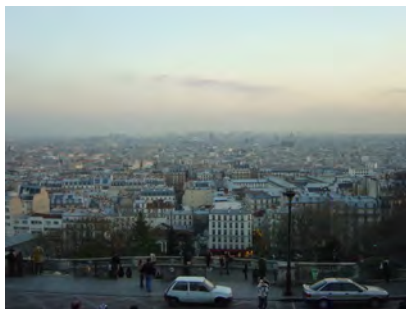
(診断図の例)

※手前が1区、奥は20区

PADDの策定のための作業は、2001年に開始し、診断、PADD案の作成を経て、2003年度に開示、聴聞を20の区毎で実施しています。

2004年度には住民意見を反映した最終図面を作成(開示・聴聞)し、市議会の承認を経て決定されることになっています。

このPADDの策定のための一連の作業は、APURが担当しており、定められた計画は、最終的には市の都市計画課が担当し、運用することになっています。



(モンマルトルの丘からのパリの眺望)

私たちは、APURのような組織に入るか、コンサルタントになるそうです。

(3) 都市計画の見直し

現在のフランスにおける都市計画の基本的なスタンスとしては、特に土地利用面ではアメリカや日本が行っているように、ゾーニング(用途地域)の種類を増やし、細分化することによって、用途純化を進めることではなく、用途混在による都市計画を進めることにより、地域間の格差を是正するとともに、都市が抱えている様々な問題(環境、人種、交通など)も解決できると考えられているところにあります。

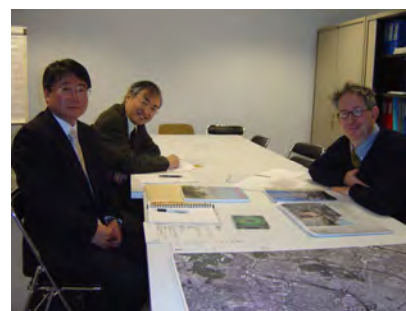
このため、これまでPOSによって細かく分かれていたゾーニングを、基本的には4種類(現在の日本の用途地域は、12種類)に集約しようという作業が進められています。

また、PADDには一定量(区によって異なる)社会住宅(市価の1/3以下で、賃貸する住宅)の建設も義務付けられています。



(社会住宅)

さらに、20年前の計画では、モーターレーゼーションの高まりにあわせて、自動車利用を前提とした都市計画づくりを行ったそうですが、現在では排ガス問題(フランス



(ヒヤリングをお願いした

Francois Mohrt氏(右)と)

※中央は通訳の広岡氏

は、ディーゼル・エンジン車を中心)など環境問題に対する意識の高まり等から、今後は出来る限り車を締め出す計画づくりが必要であると考えられているようです。

今後、様々な指標の解析・分析等により、時代の変化を的確に予測するとともに、都市の進むべき方向を、都市計画という手続きを通して、表現していく予定とのことでした。

烏田政明(神戸市都市計画総局地域支援室)

まちのぬくもりを感じる、現代の井戸端会議

By 中井 真平（都市調査計画事務所・WS 隊）

「この半年間の経験は、きっと今後生きてくるだろうな」これが、WS 隊の任期を終えての素直な感想です。去年の秋から今年の春までの6ヶ月間、WS 隊としていろいろなワークショップのお手伝いをさせていただきました。

これまでワークショップに参加した事もなかった私が、縁あって地域のまちづくり活動や、WS 隊として種々のワークショップをお手伝いさせていただくことになり、最初は自分に務まるものかどうか不安でいっぱいでした。そんな私を参加者の皆さんはあたたかく迎えて下さり、ワークショップに慣れている方などは積極的に意見をおっしゃって、逆に未熟な私を導いて下さいました。（本来は私が進行していかないといけないのですが・・・）本当に感謝しています。

ワークショップにおいて重要なのは、『自分の意見をみんなに伝えること』そして『みんなの意見を聞くこと』だと私は思います。そうして、みんなが互いの考えや思いを共有することが、もっとも基本的なことなんだと感じました。このことはなにもワークショップに限ってのことではなく、いかなる場合も人と人とのコミュニケーションは基本だと思います。ですからなにも難しく考える必要はなく、『一人一人が自由に思っていることを言い合える場』それが本来、ワークショップの場なのだと思います。（姿勢をよくした井戸端会議とでも言いましょうか）もちろん真剣な話し合いの場であるし、地域の問題などを話し合ったりする場合等は堅苦しい空気を感じるかもしれないし、そういう場に抵抗がある方もいらっしゃると思いますが、初心者の方が楽に挑めるように僕らスタッフも心がけています。

これまでワークショップに参加したことのない方や、足が遠のいていらっしゃる方も、また是非、機会があればワークショップに参加してみてください。

6ヶ月間のワークショップ隊を経験し感じたこと

By 正木 智（環境緑地設計研究所・WS 隊）

あっという間の6ヶ月間でした。たった6ヶ月間のワークショップ（以下、WS）の研修でも、WS が好きになるぐらい意味のある研修期間でした。

学生時代には、まちづくりの現場に身を置き勉強していたので、少しぐらいはWS について知っていました。ただ、知っているだけで、WS を使う目的がどういう場合で、その目的を達成するためにはどこにポイントがあるのかなど、WS を計画から運営するまでの過程について理解できていません。さらに、WS を行うことによって生み出される価値については、全く思い浮かびませんでした。

この6ヶ月間のWS の研修プログラムでは、WS を運営するための基本となるスキルを学ぶことができるほど充実した内容でした。さらに、その期間中に派遣されるWS にお手伝いで参加することによって、そのスキルを確実に身につける実践の場となりました。そして、研修を終えるにあたってのフィナーレでは、WS のプログラムをWS 隊のメンバーのみで、組み立てられる段階まで到達しました。

派遣依頼のWS については、できるだけ参加するよう心がけました。そのWS は、テーマが「防災のまちづくり」、「通学路線の改善」、「公園づくり」など様々で、神戸市内の地域ごとで開かれました。どのWS も地域での課題を解決するにあたってWS のプログラムが練られ、様々な工夫がなされていました。基本はWS の研修プログラムで学んだ通りで、臆することなくテーブルリーダーとしてグループの意見を引き出し、模造紙にピクチャー（図と図の関係からなる絵）を浮かびあがらすことに成功しました。

WS 後の親睦会で参加者とおしゃべりしながら感じたことは、課題解決の目的を達成するためにWS が使われる以上に、WS を使用することによって参加者同士の地域づくりへのつながりが生まれ、自分達の住む地域は自分達で作るのだという、参画への意識が個々に芽生えるのだと確信しました。

高まりつつあり、地域の取り組みを支援しています。

4. 今後の展開

長田は下町らしい良好なコミュニティが形成された地域であり、この良好なコミュニティを活かし、多くの住民が参画するまちづくりの仕掛けづくりが必要です。その中で住民のつながりを強め、「わがまち」を大

切にする意識を向上することが、住民主体のまちづくりにつながると考えています。

ハード、ソフトの両面で様々な課題がありますが、地域活性化に向けて、住民の主体的な取り組みを促し、支援していきたいと考えています。

(長田区まちづくり推進課)

まちづくり会館からのお知らせ

まちづくり会館秋の企画展・こうべ元町 130 周年記念事業協賛

神戸・東京鉄道錦絵の世界

神戸市立博物館所蔵作品から

開催日時 平成 16 年 11 月 5 日 (金) から 11 月 23 日 (火)
午前 10 時から午後 6 時 (水曜日休館)

会場 まちづくり会館地階ギャラリー

主催 こうべまちづくりセンター・神戸市立博物館

協賛 こうべ元町 130 周年記念事業実行委員会・元町商店街連合会

後援 神戸市・神戸市民文化振興財団・みなと元町タウン協議会

入場
無料



こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

10月 1日(金)~15日(金)	安全で安心なまちづくりのために 「地域力」を高めよう	危機管理室
10月16日(土)~29日(金)	神戸 RT 構想	産業振興局工業課

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

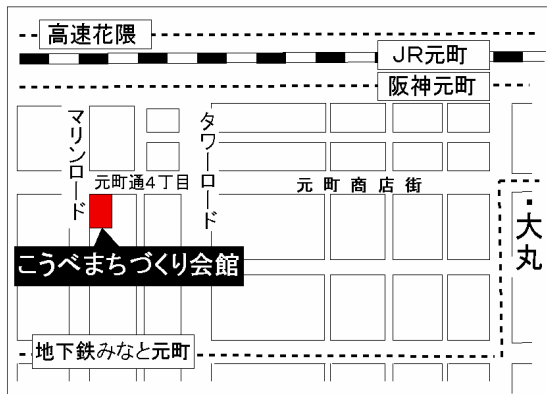
期 間	内 容 ・ テ ー マ	主 催 者
10月 7日(木)~12日(火)	写遊会	写遊会
10月14日(木)~19日(火)	アルペジオ作品展 (合同教室展)	アルペジオ
10月21日(木)~26日(火)	第12回遥洋会油絵展	遥洋会
10月28日(木)~11月2日(火)	会員による趣味の作品展	近畿税理士会神戸支部

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377
FAX 078-361-4546
受付は、月・火・木・金曜の午前 10 時~午後 5 時
- 土・日・祝日は
事前にご連絡ください。

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター (まちづくり会館 4F)
会報等の印刷サービスや
自治会の相談 (インストラクター派遣など)
受付:午前 10 時~午後 6 時(印刷は、5 時まで)
電話 078-361-4565
- 水曜休館



最寄駅

- 地下鉄海岸線みなと元町駅西口から 1 分
- 高速花隈駅東口から 3 分
- 高速西元町駅東口から 5 分
- JR・阪神元町駅西口から 8 分